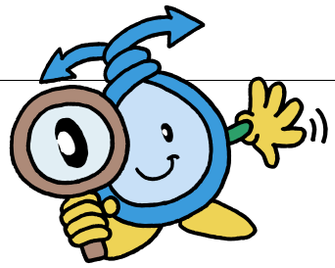
ごみ質のうつり変わり

この20年間でどんなごみが増えたの？



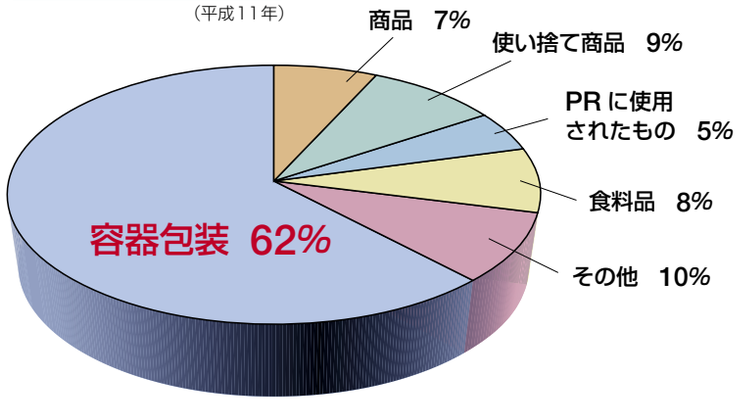
京都市は，家庭から日常的に排出されるごみを排出前の使用用途別に調べてきました。

現在，家庭のごみのうち，重さでは調理くずなどの食料品が４割を占め，容積（かさ）では容器包装が６割も占めています。

それでは，この２０年間ではどんなごみが増えたのでしょうか？

家庭ごみの中身（かさ）

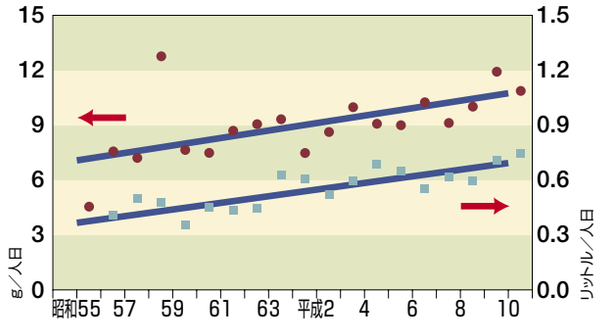
（平成11年）



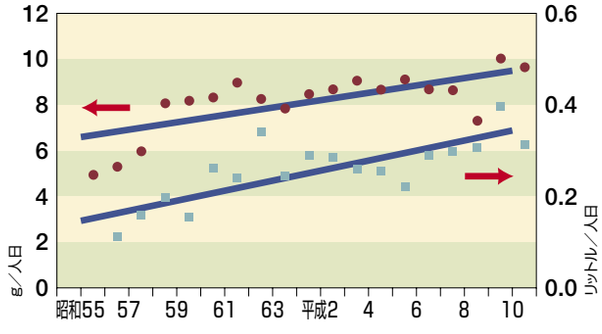
プラスチック製の「容器包装」が大きく増えました。

スーパー等の普及によってトレイやレジ袋等の排出を増やしたほか，製造業による利用容器の転換によって飲み物，醤油，サラダ油等を詰めるプラスチックボトルが増えました。

食品のパック・カップ・トレイ排出推移



手提げレジ袋の排出推移



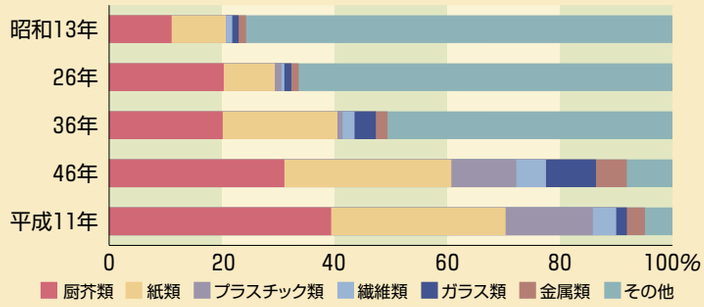
家庭ごみに捨てられた容器包装のうち
プラスチックの割合は
「重さ」では50％「かさ」では70％
にもなるんだって

ごみ質の変化は昭和３０年代から始まった

家庭ごみは，この６０年間で，燃料革命によって灰などの不燃ごみが大きく減り，その後の大量消費型の生活が紙やプラスチックごみを格段に増やしました。

昔は，練炭や豆炭の使用で
灰の排出が多かったんだね。

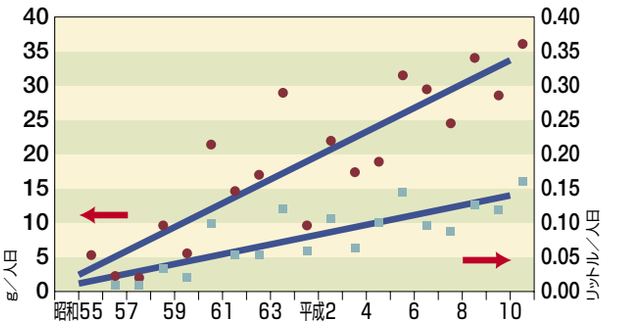
昭和初期からのごみ質の変化



「使い捨て商品」が急激に増えているの?

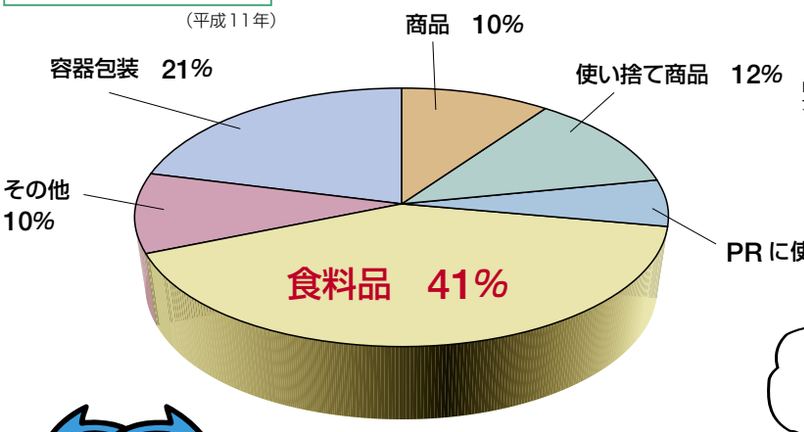
例えば，乳幼児用紙おむつは，機能性の向上や女性の社会進出を背景に，排出量は大きく増えました。最近では大人用が急増しています。

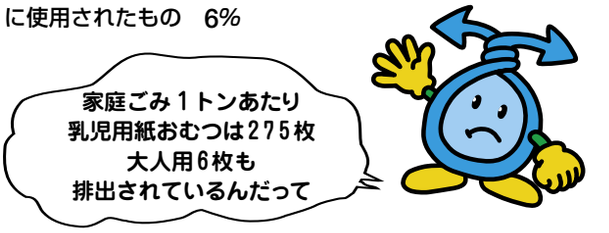
紙おむつの排出推移



家庭ごみの中身（重さ）

（平成11年）

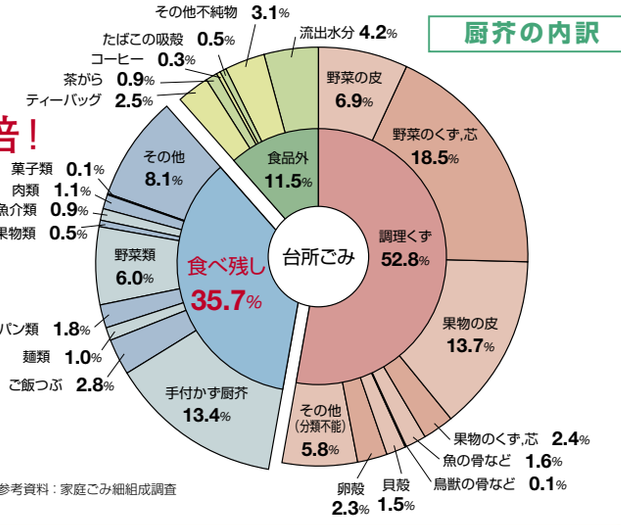




「食べ残し・手付かず食品」の排出量が２倍!

調理済み食品の利用や外食の増加で調理くずは減っているのに食べ残しや開封もされずに捨てられる食品は増えています。

厨芥の内訳



参考資料：家庭ごみ細組成調査

買って捨ててかかった費用 2

無駄に捨てられる食べ残し・手付かず食品の値段（ある地区での調査結果により）

１世帯（４人家族の場合）が１年間に排出する「生ごみ」は約３７０Kg であり，そのうち，「食べ残し・手付かず食品」は約１３０Kg にもなります。

これらのごみを収集し処理した費用と無駄に食品を購入した費用を足し合わせると，なんと年間１１万円近くも出費していることになります。

５０世帯３日分の手付かず食品

なんと！
合計 ￥108,900

無駄に捨てられる費用

食品を無駄に購入した費用 *	￥101,500
税金として支払ったごみ処理費用	￥7,400

* 科学技術庁資源調査報告第１２３号「暮らしと資源との関わりに関する調査報告」平成１１年３月より加工